LIXIL

プログコートフェンス M1型 取付説明書

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
●この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号	記号の意味
警告	●取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。
注意	●取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。
一般情報に関する記号	
ポイント	●取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。 ●守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
※	●取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。 ●取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。
補足	●説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

＜施工の前に＞

警告

●フェンスは隣地との境界を示す目的で設置するものです。転落防止を目的とした防護柵や歩行補助を目的とした手すりとしては使用しないでください。

注意

●製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
●正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
●製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。

ポイント

●施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

＜施工上のご注意＞

注意

●現場でブラケットや部品を組付け・締結する場合は、施工後に締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故の原因になります。
●柱はブロックに施工しないでください。高尺のため強い風圧を受け、飛散事故の原因になります。
●基礎が沈降したり傾いたりすることがあるため、必ず割栗石を敷いてください。

＜基礎工事について＞

注 意

●コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は、非塩素系や非アルカリ系混和剤をご使用ください。

●指定基礎寸法は必ず守ってください。

■梱包明細表

【1】M1型本体

名　称	略　図	員　数
本体パネル		1
取付説明書	ー	1
取扱説明書	ー	1
注意シール	ー	1

【2】主柱

名　称	略　図	員　数
主柱		1
柱溝フタ		2
主柱キャップ		1
クッション材		14
【2-1】φ4×8サラタッピンネジ3種D=6		2

【3】Mブラケットセット

名　称	略　図	員　数
ブラケット		2
裏板		2
六角レンチ		1
【3-1】M4×10六角穴付ボルト		4
【3-2】φ4×12トラスタッピンネジ3種		4(2)※

※マイルドブラック、オータムブラウン、柿渋の場合は、ブロンズ色のネジを2個、シャイングレー、ナチュラルシルバーF、クリエラスクの場合は、生地色のネジを2個使用してください。

【4】コーナー柱

名　称	略　図	員　数
コーナー柱		1

【5】コーナー取付材セット

名　称	略　図	員　数
コーナー取付材		2
コーナー取付材キャップ		4
コーナー取付材溝フタ		2
【5-1】φ4×8サラタッピンネジ3種D=6		8
【5-2】φ4×13バインドドリルネジ		10

【6】M壁付け部品

名　称	略　図	員　数
壁付け部品		2
壁付け部品カバー		2
【6-1】φ4×13サラドリルネジ		2
【6-2】φ4×35トラスタッピンネジ1種		2
【6-3】φ4×13バインドドリルネジ		2
【6-4】M4平座金		2
【6-5】フィッシャープラグ S6		2

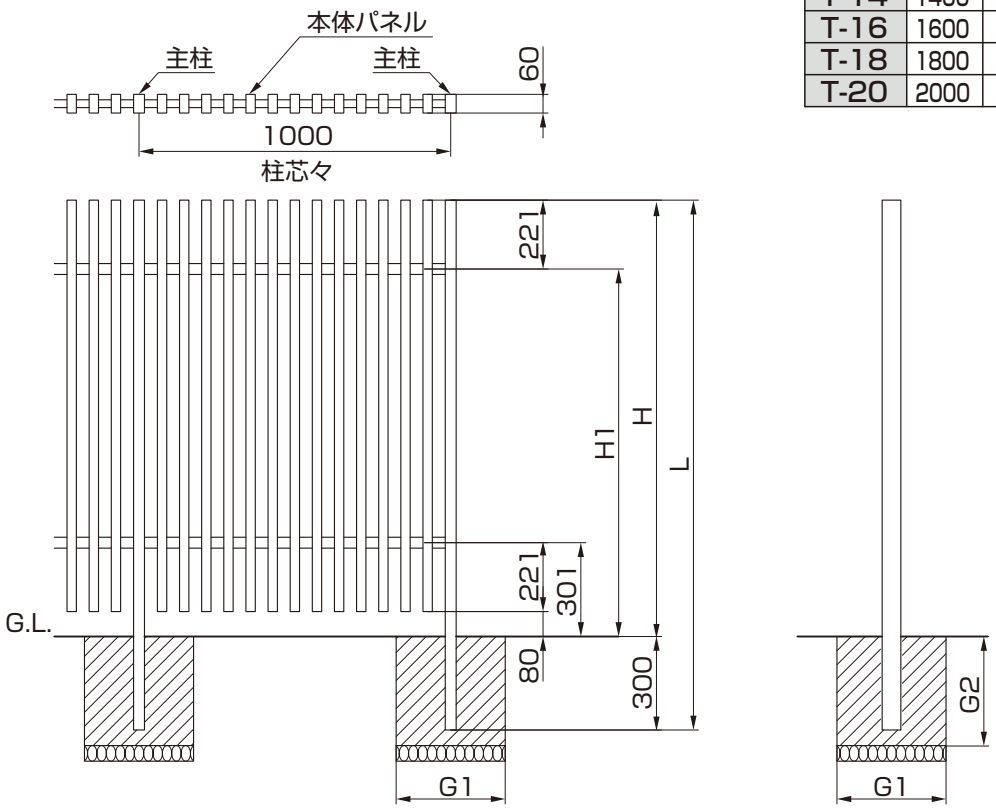
1. 基本寸法図

1-1 基本施工

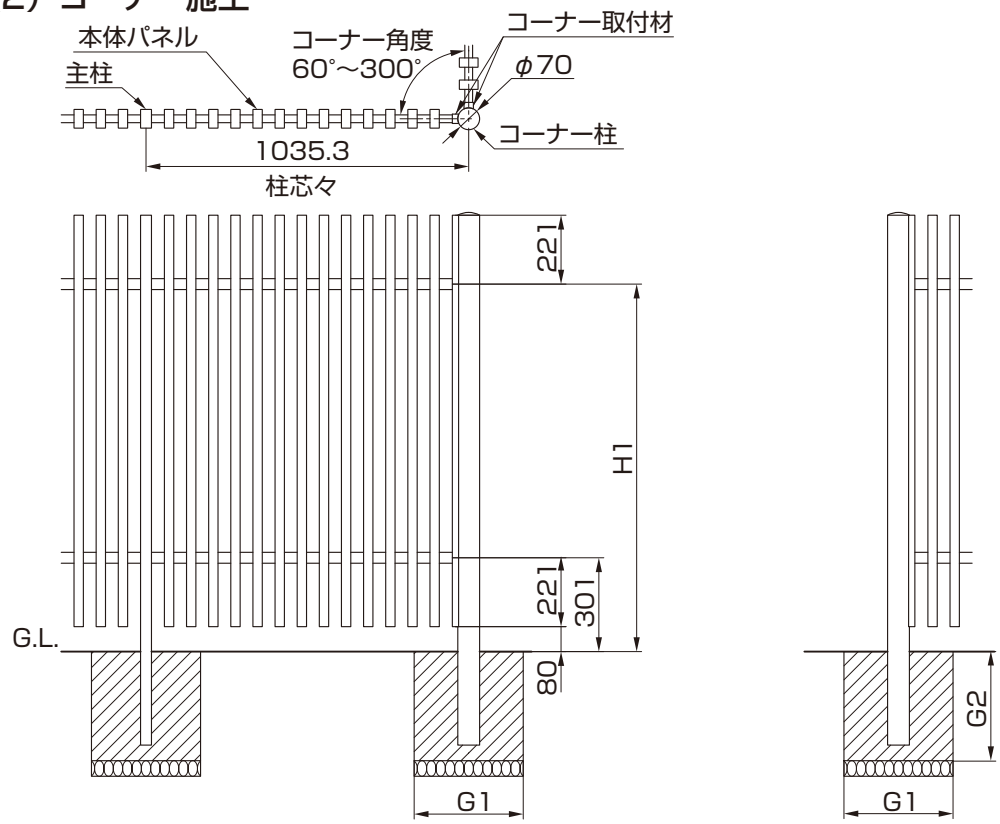
（1）直線施工

表1-1 施工基本寸法表

呼称	H	H1	L	G1	G2
T-14	1400	1179	1700	350	300
T-16	1600	1379	1900	350	300
T-18	1800	1579	2100	400	300
T-20	2000	1779	2300	400	350

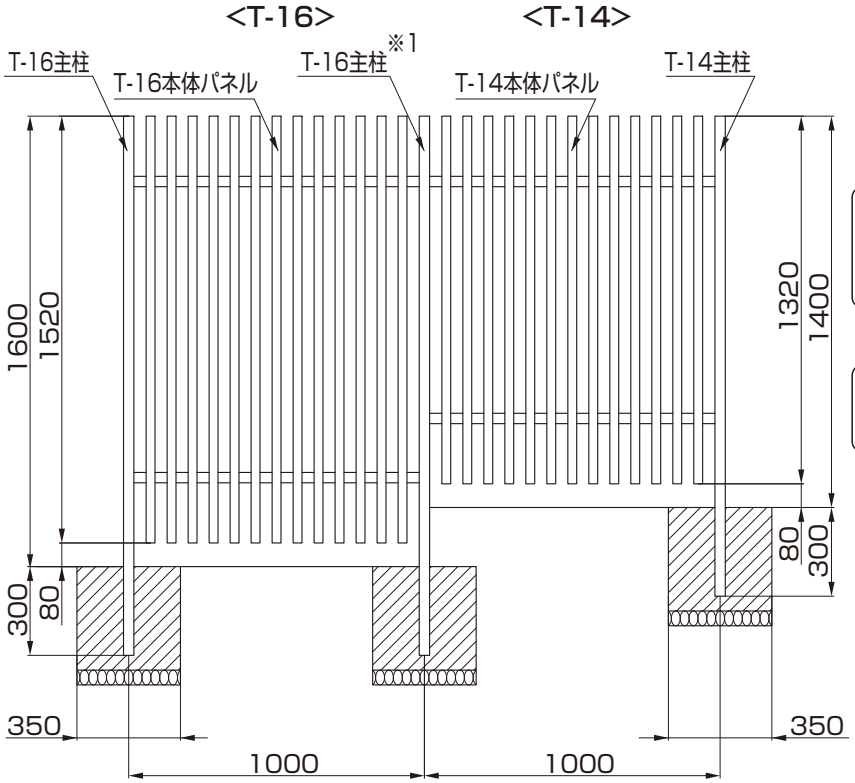


（2）コーナー施工



1. (つづき)

(3) 段違い施工　※T-14とT-16の段違い施工例です。



ポイント

●中間の主柱は高い本体用の柱を使用してください。（※1）

補 足

●本体Hサイズの組合せは任意です。

1-2 壁付け施工の場合

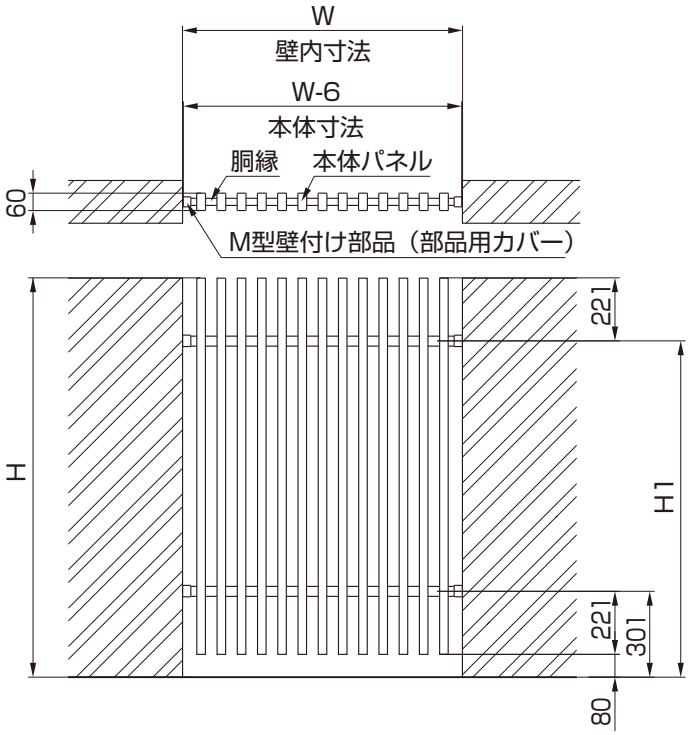


表1-2 施工基本寸法表

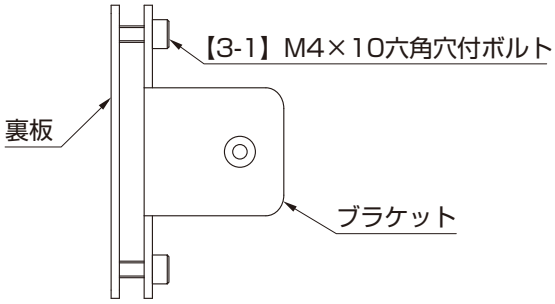
呼称	H	H1
T-14	1400	1179
T-16	1600	1379
T-18	1800	1579
T-20	2000	1779

補 足

●規格品の本体寸法は976mmです。

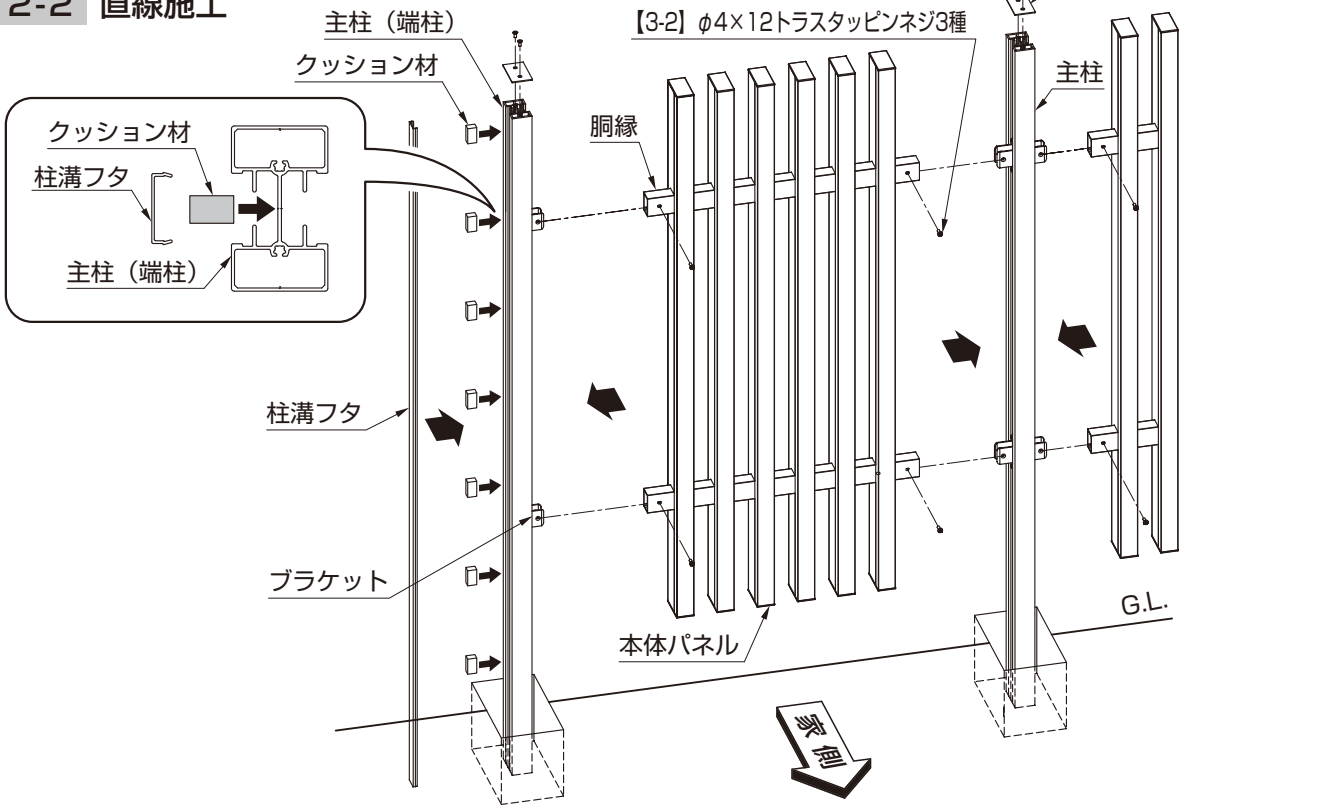
2. 基本施工

2-1 ブラケットの組立て



①ブラケットと裏板を【3-1】で仮組みしてください。

2-2 直線施工



①ブラケットを基本寸法図の表1-1を参照して主柱に取付けてください。
②本体パネルの胴縁をブラケットに差込み、【3-2】で固定してください。

ポイント

●【3-2】が家側から止められるように本体パネルを取付けてください。

③【2-1】を使用して主柱キャップを取付けてください。
④柱溝フタのガタツキ防止のため、端部の柱の外側にクッション材を均等に7箇所貼り付けてください。
⑤端部の柱の外側には、柱溝フタをはめてください。

ポイント

●柱の基礎固定は本体パネルを組付けた後にモルタルでしっかり固定してください。

注 意

●柱埋込み時には水抜き穴を塞がないように施工してください。また、内部にモルタルを埋めたりしないでください。柱の腐食が促進されるだけでなく溜まった水が凍結し、破裂するなど事故につながるおそれがあります。

2. （つづき）

2-3 コーナー施工の場合

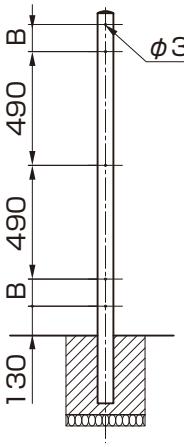
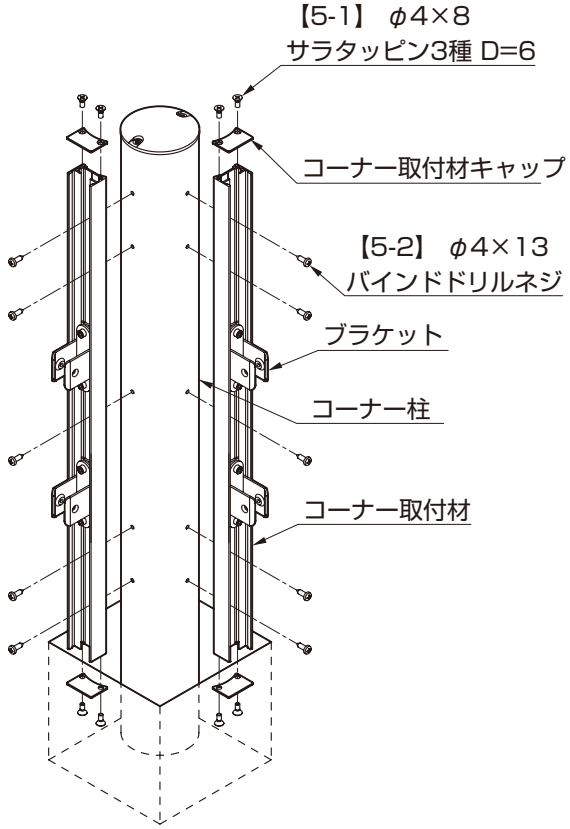


図2-1

表2-1

呼称	B
T-14	120
T-16	220
T-18	320
T-20	420

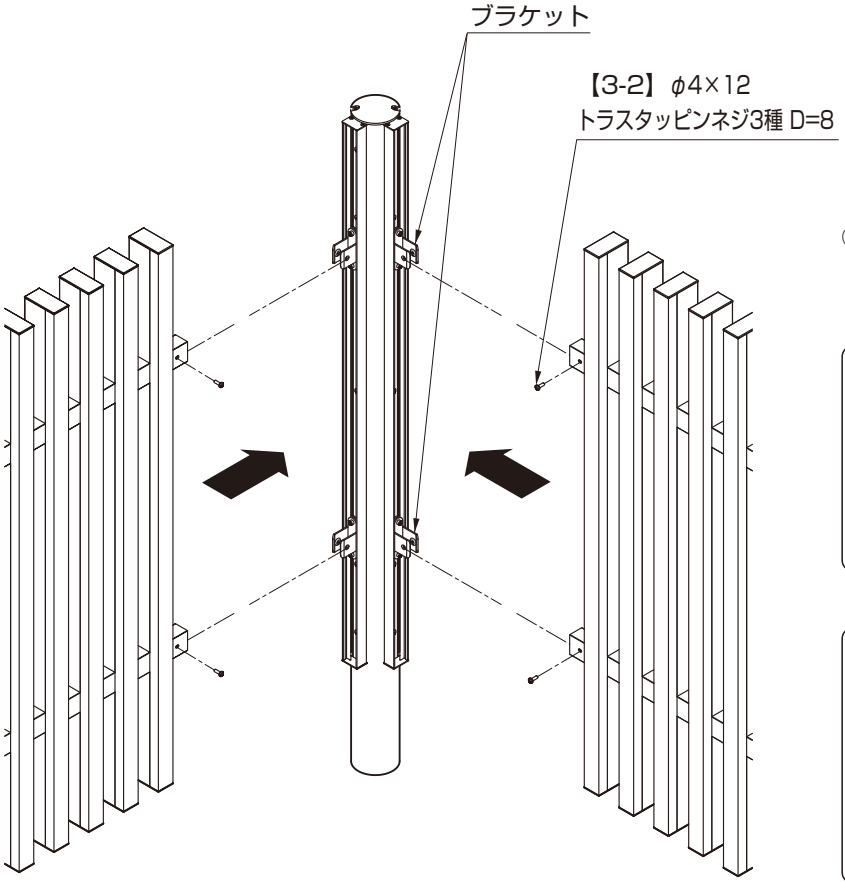


①フェンスを取付ける角度に合わせて、コーナー柱にφ3.5の下穴をあけてください。（図2-1参照）
②ブラケットをコーナー取付材にスライドしながら差込み、指定の高さで取付けてください。

ポイント

●取付ける高さは基本寸法図の表1-1を参照してください。

③コーナー取付材キャップを【5-1】で取付けてください。
④コーナー取付材をコーナー柱に【5-2】で取付けてください。



⑤ブラケットに本体パネルの胴縁を差込み、【3-2】で固定してください。

ポイント

●【3-2】が家側から止められるように本体パネルを取付けてください。
●柱の基礎固定は本体パネルを組付けた後にモルタルでしっかり固定してください。

注 意

●柱埋込み時には水抜き穴を塞がないように施工してください。また、柱の内部にモルタルを埋めたりしないでください。柱の腐食が促進されるだけでなく溜まった水が凍結し、破裂するなど事故につながるおそれがあります。

2. （つづき）

2-4 柱溝フタ・コーナー取付材溝フタの取付け

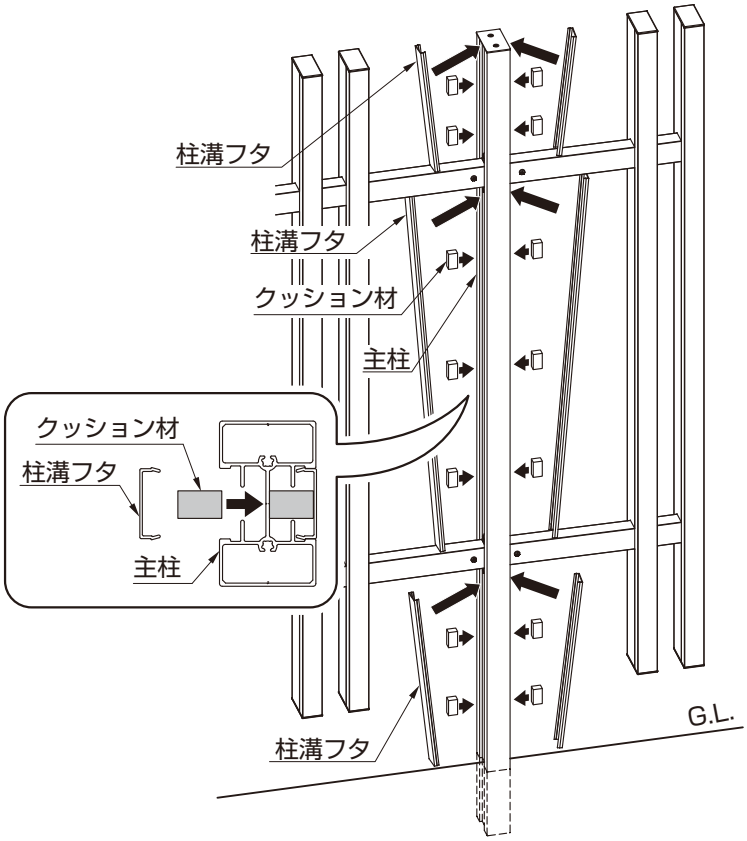


図2-2　直線施工の場合

①直線施工の場合は、柱溝フタのガタツキ防止のため、主柱にクッション材を適切な位置に貼付けてください。（図2-2参照）
　上部　:左右各2箇所
　中間部:左右各3箇所
　下部:　左右各2箇所

②柱溝フタをを主柱の溝の長さに合わせて切断し、主柱の溝にはめ込んでください。

ポイント

●柱溝フタ・コーナー取付材フタは、フタの下側からはめていってください。

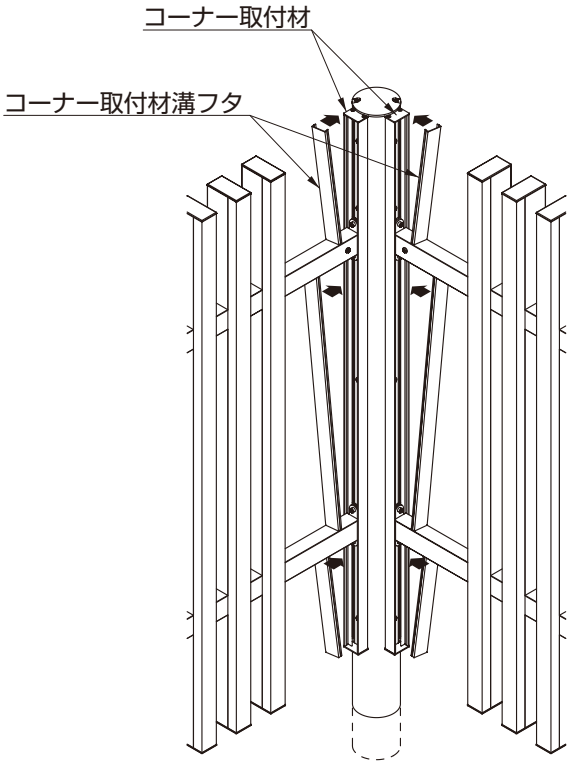


図2-3　コーナー施工の場合

③コーナー施工に場合には、コーナー取付材溝フタをコーナー取付材の溝の長さに合わせて切断し、コーナー取付材にはめ込んでください。（図2-3参照）

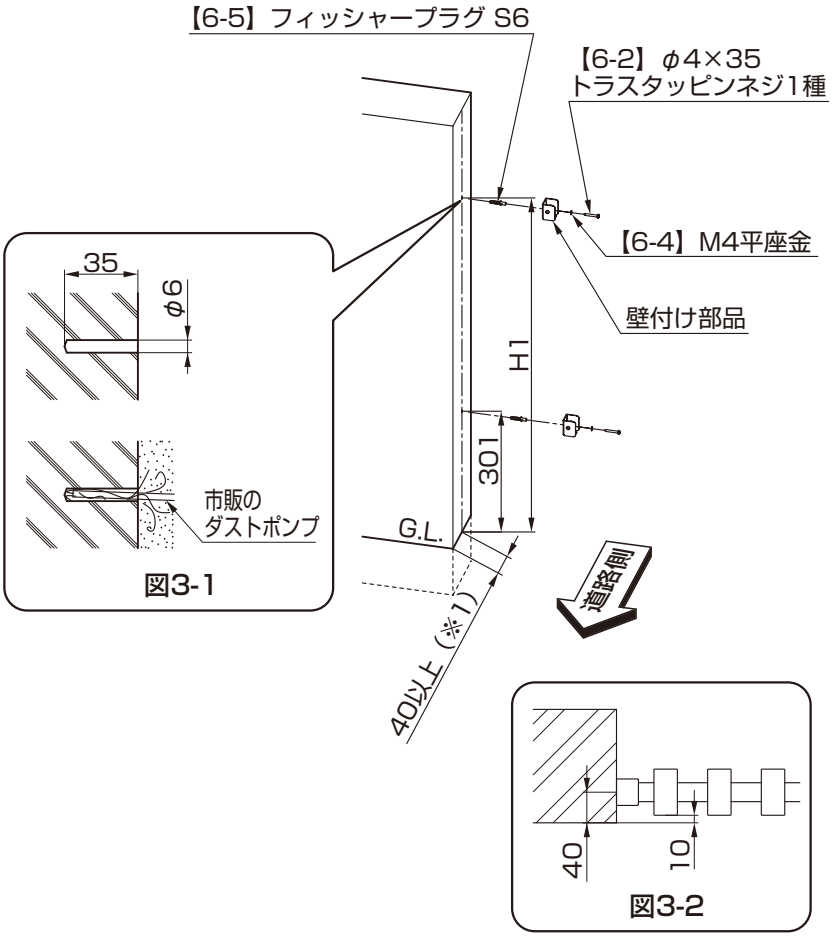
ポイント

●コーナー施工の場合はクッション材の貼付けはありません。

3. 壁付け施工

3-1 壁付け部品の取付け

（1）壁（コンクリート・ブロック）への取付け



ポイント

- 取付ける壁の強度を確かめてください。
- 壁の表面を塗りなどで仕上げる場合は、仕上げをする前に本体パネルの取付けを行ってください。

①壁付け部品を取付ける位置にφ6・深さ35mmの穴を2カ所あけてください。（図3-1）

ポイント

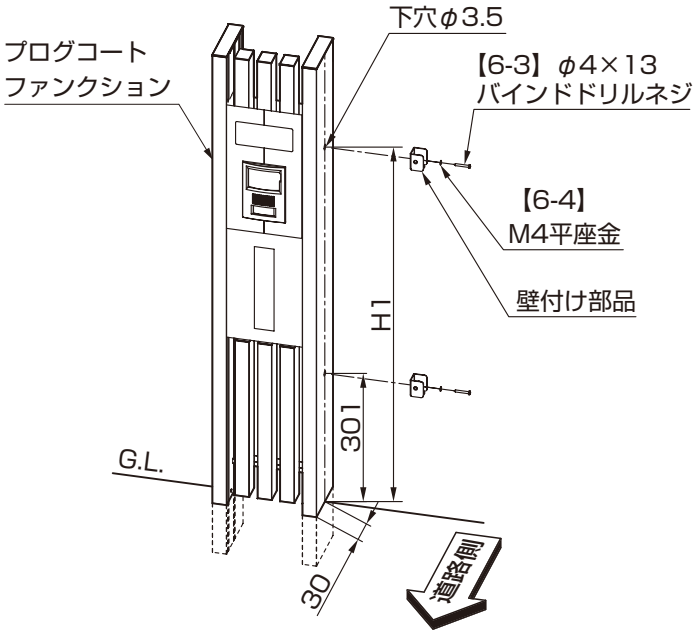
- 壁の端部から40mm以上確保してください。（※1）
- 40mmで取付けた場合、本体パネルは10mmセットバックします。（図3-2参照）

補 足

- 取付ける高さは基本寸法図の表1-2を参照してください。
- 市販のダストポンプを使用して穴の中の切粉を取り除いてください。

②【6-5】を挿入してください。
③壁付け部品を【6-2】と【6-4】で取付けてください。

（2）プログコートファンクションへの取付け



①プログコートファンクションにφ3.5の下穴を2カ所あけてください。下穴をあける位置は表1-1を参考にしてください。

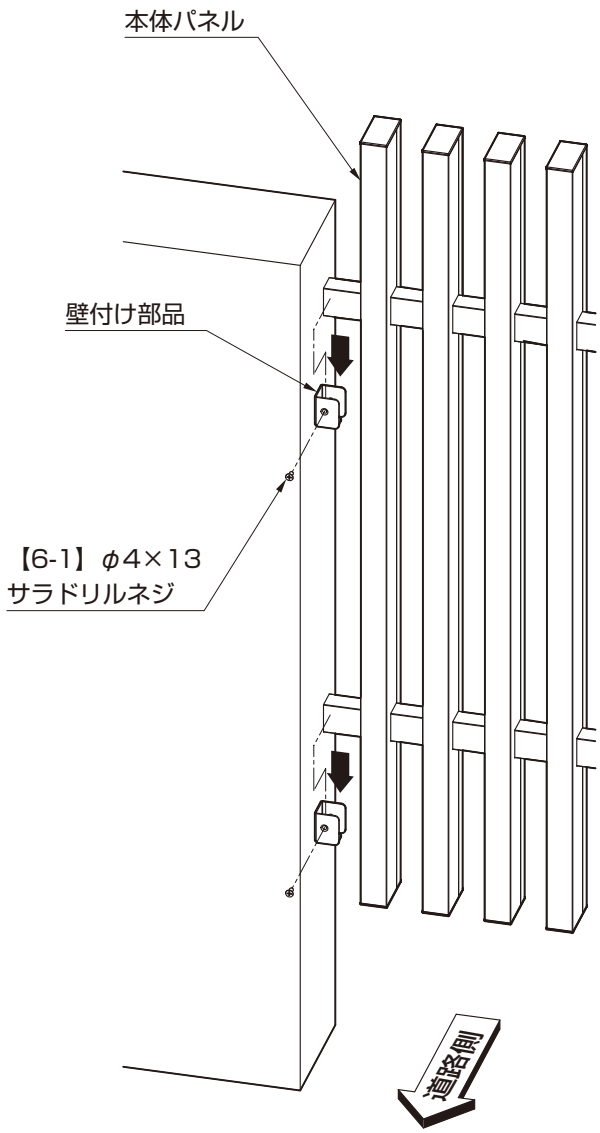
ポイント

- 指定位置以外に下穴をあけないでください。

②壁付け部品を【6-3】と【6-4】で取付けてください。

3.（つづき）

3-2 本体パネルの取付け



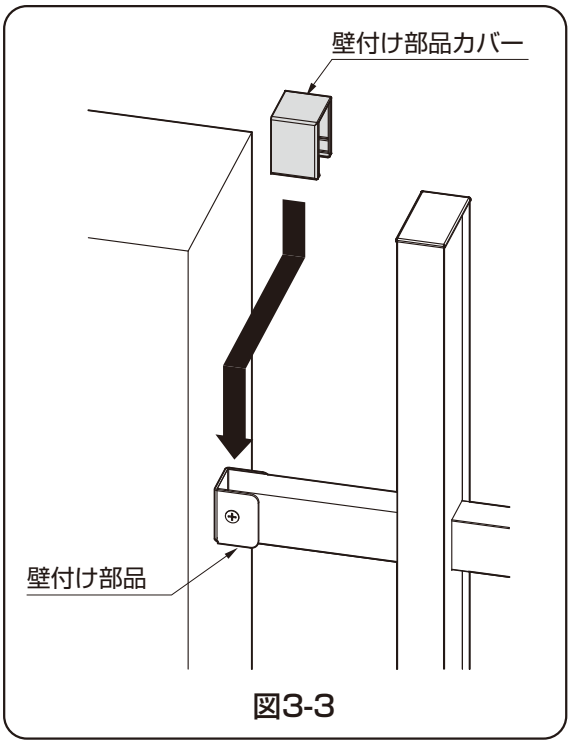


図3-3

①本体パネルの胴縁を壁付け部品にのせ、【6-1】で取付けてください。

ポイント

- 【6-1】は道路側から止めてください。

②壁付け部品カバーをはめてください。（図3-3参照）

4. 本体パネルの切詰め

4-1 本体パネルの切詰め方法

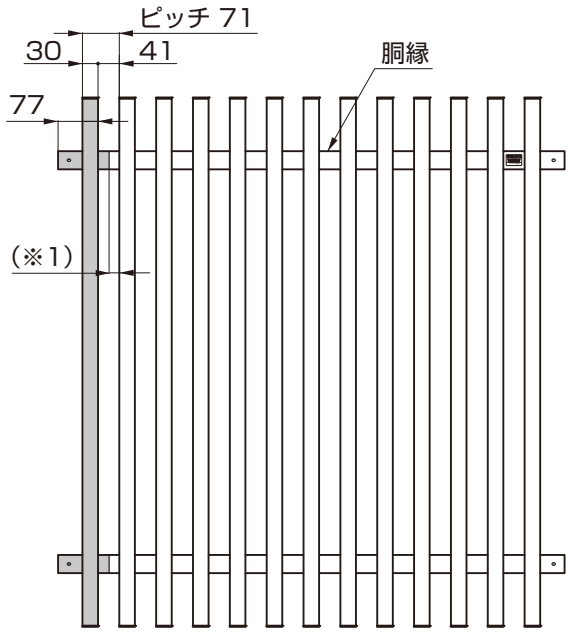


図4-1

①図4-1を参考に切詰めてください。

ポイント

- 柱に取付ける場合は25mm以上、壁などに取付ける場合は30mm以上胴縁を残してください。これより短い場合は施工できなくなります。（※1）
- 高さ方向の切詰めは行わないでください。

4-2 胴縁端部の加工

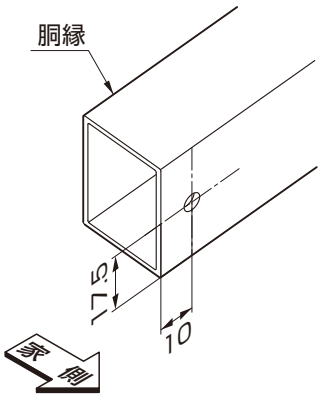


図4-2　柱付けの場合

②柱付けの場合は、胴縁の家側にφ5mmの下穿をあけてください。（図4-2参照）

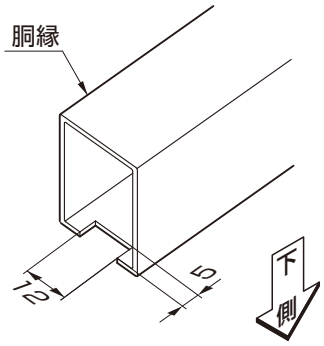
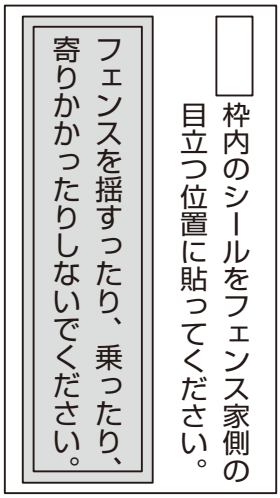


図4-3　壁付けの場合

③壁付けの場合は、胴縁の下側に切欠き加工をしてください。（図4-3参照）

5. 注意シールの貼り付け



①必ず注意シールをフェンス本体または柱家側の目立つ位置に貼ってください。

ポイント

- ●注意シールは施主様に安全に使用していただくために必要です。
- ●注意シールは本体パネル内の取付説明書・取扱説明書と一緒に梱包しています。

取説コード
C334
JZZ611423E
200602A_1001
201607F_1049